



田野 香織

いながわ 特派員報告



高橋 祐子

ご存知ですか？ 水道モニター

問合せ 上下水道課 (07660・8716)



モニターの募集は？

上下水道課が行います。場所は水道庁舎。募集内容は、広報紙に掲載します。町内在住の18歳以上で、平日の昼間に活動できる人ならどなたでも歓迎。任期は1年で、6回程度無報酬のボランティアで活動します。

活動内容は？

水道水はどこでどう作られ、使った後、どこでどう処理されるのか、み上げて水道水を作り、猪名川町を含む近隣地域に送っています。種類の違う処理槽がいくつもあり、それぞれに仕組みや役割があって、川の水がだんだんと浄化されて水道水になっていく工程を見学します。監視画面が並び、施設を24時間管理している管理本部も見学しました。

施設見学

～遠足気分であわわ～

役場に集合し、施設見学に出かけました。
*一庫ダム
町の9割を占める水道水(県水)の水源を知る企画です。



ダムの歴史や構造の説明を聞きながらコンクリート打ちっばなしの細くて暗い通路を進み、ダム内部の構造を見ていきます。最後は外に出て、職員専用の鉄の橋から、目の前にダムの真正面を仰ぎ見ます。見学のコースではなく、毎日、職員が作業をしている内部をそのまま体験できる貴重な機会です。

*多田浄水場

一庫ダムから放流された水は、猪名川を流れます。多田浄水場では、猪名川から水をくります。

昨年7月1日号の広報紙で募集された「第5期、水道モニター」。このたび、モニター活動が完了しました。何のために、どんなことをするのかなどをご紹介します。特派員自身、過去にモニター経験者で、今回その魅力をお伝えできると思えば喜びもひとしお。

上下水道のしくみ、水質管理はどのような基準でどのように行われているのか、水道事業は水道料金で運営されているのか、などを講義や施設見学を通じて学びます。また、知りたいことを職員に尋ねたり、頭に浮かんだことを伝えたりしていきます。

上下水道課職員の皆さんに聞きました

この企画の目的は？

「私たち職員は、安全な水や、安定した水道環境をいつも提供できるよう、日々努力をしています。しかし、こちらの一方的な努力だけでは見えないことも多く、ご利用いただく皆さんの視点が重要です。その中から、よりよい水道事業のためのヒントや改善点を見出し、活用したいと考えています。今年6月からは、第6期のモニター活動を予定しています。飲むだけでなく、入浴、洗濯、掃除など、生活のあらゆる場面でお使いの水道のこと、詳しく知ってみませんか？そして、子どもたち、孫たちの世代にも、安全で快適な水道環境を引

きついでいくにはどうしたらいいのか、私たちと一緒に考えていただけませんか？」

気軽に参加ください

「知っていただけでも十分」とのこと、活動日に参加するだけで、レポート提出など作業も全くありません。

今期の活動の様子

活動時に次回の活動日時を相談し、全員が都合のいい日時で活動されました。「今まで何も考えず当たり前に使っていた水道ってこうなっていたのか、と感心した」「使った水はできるだけ汚れを落として流すよう気をつけたい」「個人ではなかなか行けない施設を見学できてよかった」という感想に加え、「自分が毎日使う水道を管理している職員の人たちのお顔を知ることができて安心した」という声もありました。

～確かに違う～

きき水を体験



猪名川の水

清水東、笹尾、県水、ミネラルウォーターの4種類を、A、B、C、Dとラベルされたコップに入れて飲み比べ、どれがどの水かを想像し、おいしい、普通、おいしくない、を判断します。

「口に始めたたん「あ、なんだか違う」「これ、さうっとしてる」「これは「ク」がある」「甘い」などの声があがります。

さらに、どれがどの水かが1つつ発表されるたびに部屋がどよめき、「当たった!」「「ちがった!」と一喜一憂。おいしさは人それぞれでよく、正解は「なし」です。全体的に、自分が日頃飲んでいる水を一番おいしく感じたと、という結果でした。

編集後記

3月中旬に、「水道広報(第3号)」が発行されます。今期の水道モニター活動報告や、上下水道について役立つ情報が満載!お楽しみに。

ふおとにゅ〜す

給食で地元食材を使った「ぼたん汁」を味わいました



◀1月24〜30日を期間とする全国学校給食週間に合わせ、24日に給食センターでは、地元の食材を使った「ぼたん汁」を献立に取り入れた給食をつくりました。
幼稚園児や小・中学校の子どもたちは、「おいしい!」とふるさとの食を味わいました。

力を合わせて鬼は外・福は内!

▼2月1日、保育園で節分の行事が行われ、園児たちは部屋に入ってきた赤鬼に力を合わせて「鬼は外・福は内!」と声をかけながら新聞紙で作った豆を投げつけ、部屋から追い出しました。



初釜で心も新たに



▲▶1月27日、茶道協会による初釜が開催され、130人の参加者は抹茶・煎茶・点心など、初春のお茶を味わいました。

収穫した大豆で味噌づくりを体験



◀▶1月29日、大島小学校3年生の児童が味噌づくりを体験しました。

児童たちは「地域農産物を活用した地域活性化プロジェクト」により、地元農家や「いなほ郷グループ」の協力を得て大豆の種まきから収穫・加工・調理までを行うことで、農作物を育てることの大変さや食の大切さ、地産地消を体験しました。

子どもたちの旅立ちに向けて!

▼2月16日、4月から松尾台小学校との統合が決まっている阿古谷小学校で、最後の「学習発表会」が行われました。

45人の子どもたちは、学校生活での思い出や友達の大げささ、阿古谷小学校の歴史や未来について発表し、「全校児童で「校歌」や「ふるさと」を合唱しました。残り1カ月の阿古谷小学校での生活を惜しみながらも、未来への旅立ちに向けた意気込みを感じるひと時となりました。



子どもの「キモチ」からまなぶ

▼▶2月16日、社会福祉会館で町青少年健全育成推進会議主催の「青少年フォーラム」が開催され、190人が参加しました。

当日は、教育学者小野田正利教授を迎え、基調講演ではよく通る声とユーモアある親しみやすい語りの中で、素晴らしい講演会となりました。また、アトラクションとして猪名川高校吹奏楽部による演奏も行われました。

二部のパネルディスカッションでは、地域の大人とともに、中学・高校・大学生が参加し、こどものキモチについて語り合いました。



イクジイプロジェクト第2弾 かるた大会で世代間交流



▶1月26日、井岡和海さん(ファザリング・ジャパン)によるイクジイについての講演会の後、5歳〜60歳代までの30人が輪になってかるたの進行や公平なルールについて考え、カルタ取りをしながら世代間交流を深めました。

約1,100人が日頃の健脚を競う

▼2月10日、第40回彫刻の道マラソン大会が開催され、遠くは宮城県仙台市からなど約1,100人の参加者が日頃の健脚を競い合いました。

40周年を記念して招待した高瀬無量選手(実業団で活躍中、猪名川中学校出身)は10kmの部に参加し、華麗なフォームで観衆を魅了しました。総合成績では、10km男子の部1位=中井直希さん(右写真)、5km男子の部1位=小川雄河さん、同女子の部1位=宮城智帆さんなど、町内からの参加者が健闘しました。



人権啓発作品【絵手紙の部入選作品】

▲①池田礼紗さん(つつじが丘・4歳)、②木村勝也さん(清水)、③宮本浜子さん(伏見台)、④森高和子さん(松尾台)、⑤本山紗映さん(六瀬中学校3年)、⑥斎藤紀久美さん(原)

大切な「命」を救う方法を学びました

▶2月15日、町内で初めて小学生を対象に、救急講習会「救命入門コース」を実施しました。講習を受講した子どもたちは、「心肺蘇生の方法やAEDの使い方などを体験し、「自分たちにも救える命がある」ことを学びました。

